

2016年度「地域福祉実践研究フォーラム—愛知大会—」開催要項

いま、求められる地域福祉の「そうぞう力」

— 全世代・全対象型地域包括支援体制の構築に向けて —

1. 趣旨

日本地域福祉学会東海北陸地方部会では毎年、地域福祉実践者と研究者の協働による研究交流会を開催しており、今年度は愛知県で実施します。今回の愛知大会フォーラムのテーマと内容に関して、2014年度に開催された三重大会フォーラムならびに2015年度の富山大会フォーラムの内容を継承し、学びを深めていくことを目指して設定しました。

2015年9月17日に厚生労働省の新たな福祉サービスのシステム等のあり方検討プロジェクトチームより「誰もが支えあう地域の構築に向けた福祉サービスの実現—新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン—」（以下、「福祉の提供ビジョン」とする）が発表されました。「福祉の提供ビジョン」では、「高齢者、障害者、児童、生活困窮者といった別なく、地域に暮らす住民誰もがその人の状況に合った支援が受けられるという新しい地域包括支援体制（全世代・全対象型地域包括支援体制）」を構築していくことの必要性が提唱されています。いま、地域福祉の実践には、その構築に向けて「そうぞう（想像：イメージ／創造：クリエイト）」する力がこれまで以上に求められており、地域福祉実践者の真価が問われているといえます。

そこで、本フォーラムでは、「福祉の提供ビジョン」において示された、「全世代・全対象型地域包括支援体制の構築」に焦点をあて、社会福祉協議会、NPO、行政、地域包括支援センター等の地域福祉にかかわる多様な実践者と研究者が集い、地域福祉専門職や実践者に求められる視点や役割、実現に向けたこれからの課題について議論を展開し、深めていきます。

本フォーラムに参加せずして、これからの地域福祉は見えてこない、語れないと自信を持っておすすめできる2日間の内容です。多くの関係者のご参加をお待ちしています。

2. 日時・会場 平成28年12月17日（土）～18日（日）

12月17日（土）13:30～17:30：日本福祉大学東海キャンパス4階S402教室

12月18日（日）9:30～12:20：日本福祉大学東海キャンパス4階S402教室・S404教室・S405教室

日本福祉大学東海キャンパス (<http://www.n-fukushi.ac.jp/campus/tokai/acsess.html>)

〒477-0031 愛知県東海市大田町川南新田229番地

名鉄「太田川」駅より徒歩約5分（名鉄「名古屋」駅～「太田川」まで17分）

※キャンパス内駐車場は利用できないため、公共交通機関でお越しください。自動車をご利用の場合は、周辺の有料駐車場をご利用ください。

3. 主催・共催

主催：日本地域福祉学会東海北陸地方部会

後援：愛知県社会福祉協議会、名古屋市社会福祉協議会（予定）

4. 参加対象

地域福祉にかかわる実践者（社協、行政、NPO、施設、地域包括支援センター職員など）
東海北陸地方部会員、日本地域福祉学会員
大学生・院生、その他地域福祉活動に関心のある方

5. 参加定員

100名程度

6. 参加費（2日間）※1日のみ参加の場合も同額

2,000円（資料代等）※当日受付でお支払いください

大学生・院生：無料

情報交換会：4,000円※要予約

※会場および会場周辺は全面禁煙となっております。ご協力の程お願い致します。

※情報交換会の場所については、フォーラム会場周辺を予定しています。

7. 参加申込・お問い合わせ先

別紙「参加申込書」に必要事項をご記入の上、平成28年12月11日（日）までにE-MAILまたはFAXで名古屋柳城短期大学・長谷中崇志あてにお申し込みください。

1) E-Mailでのお申込み

別紙「参加申込書」に必要事項をご記入の上、E-Mail: aichitaikai2016@gmail.com あてにお申し込みください。

※受理の返信はいたしませんので、ご了承ください。

2) FAXでのお申し込み

別紙「参加申込書」に必要事項をご記入の上、FAX (052) 841-2697 名古屋柳城短期大学長谷中あてにお申し込みください。

※受理の返信はいたしませんので、ご了承ください。

※個人情報の取扱い：お申し込みに際してご提出いただきました個人情報は、本フォーラムに関する連絡・事務以外には使用しません。当日配布資料に、お名前・ご所属を掲載し配布させて頂く場合があります。

※事務局：名古屋柳城短期大学・長谷中崇志 〒466-0034 名古屋市昭和区明月町2-54

TEL (052) 841-2635[代表] FAX (052) 841-2697[代表]

8. 宿泊施設について

今回のフォーラムでは、宿泊を希望される方への宿泊施設の斡旋を行っておりません。恐れ入りますが、宿泊を必要とされる方は各自でご手配くださるようよろしくお願いいたします。

9. プログラム

1日目 12月17日(土) 日本福祉大学東海キャンパス 4階 S402 教室

時間	内容
12:30～	受付(4階 S402 教室前)
13:30～13:45	開会(主催者あいさつ、来賓あいさつ)
13:45～15:15	基調講演 「(仮) 全世代・全対象型地域包括支援体制の構築に向けた地域福祉の展開」 講師 平野隆之氏(日本福祉大学副学長・教授、日本地域福祉学会副会長)
15:15～15:30	休憩
15:30～17:30	シンポジウム「(仮) 地域特性を踏まえた地域福祉の展開に向けて—専門的援助と住民主体の福祉活動の協働—」 コーディネーター 朝倉美江氏(金城学院大学教授、日本地域福祉学会理事) コメンテーター 平野隆之氏(日本福祉大学副学長・教授、日本地域福祉学会副会長) シンポジスト 加藤昭宏氏(社会福祉法人長久手市社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー) 松下典子氏(NPO 法人ゆいの会理事、生活支援コーディネーター) 平坂義則氏(名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター金山センター長)
17:40～18:00	懇親会会場へ移動
18:00～20:00	情報交換会

2日目 12月18日(日) 日本福祉大学東海キャンパス 4階 S402 教室・S404 教室・S405 教室

時間	内容
9:00～	受付(4階 S402 教室前)
9:30～12:00	分科会 1. これからの社協のあり方を考える コーディネーター 小松理佐子氏(日本福祉大学教授) 実践研究報告者 田中秀治氏(社会福祉法人小牧市社会福祉協議会地域福祉課長) 吉村了子氏(社会福祉法人安城市社会福祉協議会地域福祉係長) 2. 「協議の場」のつくり方—ファシリテーション活用術— コーディネーター 大井智香子氏(中部学院大学短期大学部准教授) 実践研究報告者 調整中(地域福祉サポートちた) 3. ソーシャルワーク白熱教室Ⅲ—コミュニティワーク(地域支援)ことはじめ— コーディネーター 柴田学氏(金城学院大学専任講師) 実践研究報告者 加藤昭宏氏(社会福祉法人長久手市社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー)、他調整中
12:00～12:20	総括&閉会 朝倉美江氏(金城学院大学教授・日本地域福祉学会理事)

1日目 12月17日(土) 日本福祉大学東海キャンパス 4階 S402教室

◇基調講演 13:45～15:15

■テーマ：「(仮) 全世代・全対象型地域包括支援体制の構築に向けた地域福祉の展開」

■講師：平野隆之氏（日本福祉大学副学長・教授、日本地域福祉学会副会長）

■趣旨：厚生労働省「福祉の提供ビジョン」において、「高齢者、障害者、児童、生活困窮者といった別なく、地域に暮らす住民誰もがその人の状況に合った支援が受けられる新しい地域包括支援体制」構築の必要性が示され、その実現のためには、様々なニーズに対応する分野横断的・包括的な福祉サービス提供の仕組みづくり（「地域の実情に見合った総合的なサービス提供体制の確立」）が不可欠であるとされています。さらには、「今まで以上に、高齢者、障害者、児童、生活困窮者等、すべての人が世代やその背景を問わずに共に生き生きと生活を送ることができ、また、自然と地域の人々が集まる機会が増え、地域のコミュニティが活発に活動できる社会（共生社会）を実現するためのまちづくりが地域において求められる」と強調されています。

そこで、「全世代・全対象型地域包括支援体制」と呼ばれる新たな福祉サービスの仕組みを創出していくにあたり、今後の地域福祉実践を展望し、新しい支援体制をどのように整備していけばよいのかを多角的に学び、共有します。

◇シンポジウム 15:30～17:30

■テーマ：「(仮) 地域特性を踏まえた地域福祉の展開に向けて—専門的援助と住民主体の福祉活動の協働—」

■コーディネーター 朝倉美江氏（金城学院大学教授、日本地域福祉学会理事）

■コメンテーター 平野隆之氏（日本福祉大学副学長・教授、日本地域福祉学会副会長）

■シンポジスト 加藤昭宏氏（社会福祉法人長久手市社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー）

松下典子氏（NPO法人ゆいの会理事、生活支援コーディネーター）

平坂義則氏（名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター金山センター長）

■趣旨：本シンポジウムでは、3つの実践報告（①社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーク実践、②「0-100歳の地域包括ケア」（ちた型地域包括ケア）のまちづくり、③生活困窮者支援）を通じて、全世代・全対象型地域包括支援体制の構築にむけた論点を整理し、議論を深めながら、地域福祉専門職や実践者に求められる視点や役割、課題について明らかにしていきます。

とりわけ、「福祉の提供ビジョン」の「新たな地域包括支援体制の基盤となる人材」には、分野横断的で包括的な支援を行うための専門性が求められるとされています。つまり、全世代・全対象型地域包括支援体制の実現にむけて、地域福祉専門職（社会福祉士等のソーシャルワーカー）がその役割を担うことが期待されているといえます。他方、「福祉の提供ビジョン」では、全世代・全対象型地域包括支援体制の担い手として、「ソーシャルワーカー」の用語が全く使用されておらず、社会福祉士等のソーシャルワーカーの職種が、全世代・全対象型地域包括支援体制の担い手として期待されていないのではないか、果たしてソーシャルワーカーの職種はその役割を担えるだけの専門性を有しているのか等、地域福祉専門職の専門性に対する疑問の声が出されることも少なくありません。本シンポジウムでは、地域福祉専門職の「強み」だけでなく、「弱み」（求められる今後の課題）にも焦点をあてながら、議論を深めていきます。

2日目 12月18日(日) 日本福祉大学東海キャンパス 4階 S402教室・S404教室・S405教室

◇分科会1 9:30~12:00

■テーマ：「これからの社協のあり方を考える」

■コーディネーター：小松理佐子氏（日本福祉大学教授）

実践研究報告者 田中秀治氏（社会福祉法人小牧市社会福祉協議会地域福祉課長）

吉村了子氏（社会福祉法人安城市社会福祉協議会地域福祉係長）

■趣旨：社会福祉協議会は、創設以来一貫して地域福祉の推進を追求してきた民間非営利団体です。「福祉の提供ビジョン」において示された全世代・全対象型地域包括支援体制に関する内容は、社協がこれまで目指して取り組んできた活動であり、推進主体として中核的な役割を担うことがますます期待されているといえます。全世代・全対象型地域包括支援体制の構築にむけて、これまでの地域福祉実践や社協の原点にも触れながら、これからの社協が果たすべき役割や課題について考えます。

◇分科会2 9:30~12:00

■テーマ：『「協議の場」のつくり方—ファシリテーション活用術—』

■コーディネーター：大井智香子氏（中部学院大学短期大学部准教授）

実践研報告者 調整中（地域福祉サポートちた）

■趣旨：全世代・全対象型地域包括支援体制の構築を実現していくためには、多職種協働や住民の力が不可欠となります。そのため、地域福祉専門職や実践者には、多職種や住民など多様な主体（アクター）が地域課題を共有し解決にむけて話し合う「協議の場」（プラットフォーム）を意図的・戦略的につくり、誰もが安心して暮らし続けられる地域社会の実現を推進していく力「ファシリテーション能力」が求められます。公民の関係機関による協議の場「知多地域円卓会議」をつくり、「0-100歳までの地域包括ケア」（ちた型地域包括ケア）のまちづくりを進めている取り組みから学びあい、そのノウハウの習得を目指します。

◇分科会3 9:30~12:00

■テーマ：「ソーシャルワーク白熱教室Ⅲ—コミュニティワーク（地域支援）ことはじめ—」

■コーディネーター 柴田学氏（金城学院大学専任講師）

実践研究報告者 加藤昭宏氏（社会福祉法人長久手市社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー）、他調整中

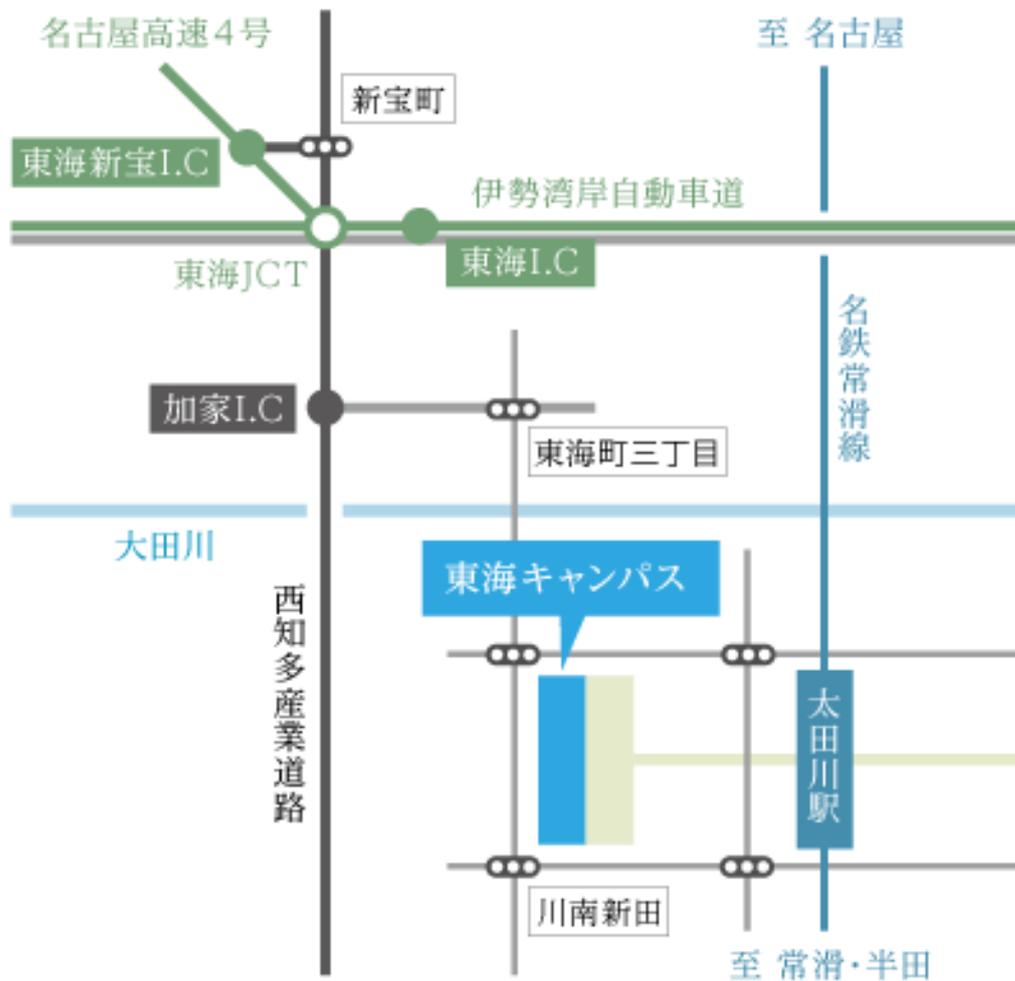
※ソーシャルワーク白熱教室は、2014年度三重県大会フォーラム、2015年度富山県大会フォーラムで開催され、その内容を引き継いだ分科会です。なお、本大会フォーラムでは、本分科会の参加対象年齢制限は設けていません。

■趣旨：地域福祉の実践、とりわけコミュニティワーク（地域支援）の実践においては、「ニーズを把握して、個別支援へつなげ、地域支援へとつなげることが大事」と言われても、「何だかよく分からない…」「そもそもコミュニティワークって何？」とイメージできなくて悩んでいる人も多いのではないのでしょうか？一言でコミュニティワーク（地域支援）と言っても、その実践方法は様々ですし、実践する人の属性によっても異なる展開を見せるものです。この分科会では、実践事例の報告をもとに、コミュニティワーク（地域支援）を展開するうえでの理論や方法、視点についてワークショップ形式で学びあいます。この分科会の参加を通じて、本当の意味でのコミュニティワーク実践の扉を開く“ことはじめ”にしませんか？

■会場アクセス

日本福祉大学東海キャンパス

名鉄「太田川」駅より徒歩約5分



※名鉄「名古屋」駅～「太田川」駅（名鉄常滑線）17分

※名鉄「中部国際空港」駅～「太田川」駅（名鉄常滑線）19分